

学校教育目標 新しい知を拓き、ともに生きる豊かな社会を創るため、主体的に学ぶ、人間性豊かな「南古谷っ子」を育成する
目指す学校像 みんなが みんなを 大切にする学校
南古谷小学校5つのじまん あいさつ ことば なかよし 読書 歌声

川越市立南古谷小学校



学校だより

なのはな

かしこく ゆたかに たくましく

令和6年5月31日発行

『不便』の中にある『益』に着目して

校長 馬場 雅史

子供達が通う通学路沿いの田に稲の苗がきれいに並んでいます。空の青と水面の青が衣服の清涼剤のように感じられる日々もつかの間、台風が発生し大雨や線状降水帯等にも改めて気を配らなければならない時期になりました。保護者・地域の皆様とは早めの災害危機管理対応を行っていかねばと思っています。

保護者の皆様におかれましては、5月中旬から下旬にかけての2週間にわたり、面談の機会を設けさせていただきました。ご多用の中で、時間等を調整していただき誠に感謝いたします。今年度は、目指す学校像として「みんなが みんなを 大切にする学校」を掲げました。これは、子供を真ん中において、保護者の皆様と職員とがお互いを大切にしながら、子供達を大切にしていくという意味を込めております。今回の面談も踏まえて、これからも情報提供、情報共有、課題解決に向けて力を合わせてまいりましょう。ご相談は遠慮なくお願いいたします。また、地域の皆様におかれましては、学校経営に対するご意見等を気兼ねなくお伝えください。

ところで、5月26日(日)には、南古谷地区サポート委員会主催の農業体験(田植え)が実施され、南古谷小学校からは30名を超える子供達とその保護者の皆様が参加してくださいました。『となりのトトロ』の名場面、主人公のサツキとメイがトトロと一緒に植物の成長を祈願するときのポーズを子供達と一緒に執り行い、いざ田んぼへ向かいました。私自身4回目のチャレンジの中で一番の出来栄えに妙な達成感がありましたが、一本道を挟んだ隣の田の整然とした苗の美しい配置を見て、機械の有能さに思い至りました。そして同時に『不便益』という言葉思い出しました。

京都先端科学大学の教授は『不便益』の研究を進めており、「『不便』の中にも『益』がある」と提唱しております。細かな研究の内容は、割愛させていただきますが、教授は、『不便益』を八つの「益」があると整理しています。①主体性が持てる、②工夫できる、③発見できる、④対象が理解できる、⑤安心・信頼できる、⑥上達できる、⑦私だけ感、⑧能力低下を防ぐ、です。例えば①主体性が持てるとは、「やらされている」の反対と捉えることができます。不便な物事は、主体的に何かをすることを許してくれるものが多く、反対に便利な物事は、人に自由はあまりなく「やらされている」状態になります。自らの手に抛る田植えは、自分の事として「楽(らく)じゃないけど楽(たの)しく」感じられました。あくまでも私の直感的な感想です。「古に戻れ」ということではありませんし、決して便利な機械を否定するものでもありません。

「学習」の場面で考えた時に、「わかる」「できる」を目指した型にはまったスマートな授業は、リアリティが無く実感(理解)を伴わないことがあると思います。理想を言えば、わかりにくく、引っかけが多く、「自分で調べよう」「質問してみよう」という意欲をかき立てる授業を目指さねばなりません。そのためには、子供達がまず興味を持てる体験的な活動や教科書を踏まえた仕掛けが必要となります。現行学習指導要領も本格実施から5年目を迎えました。改めて職員と共に授業づくりに頭をひねりながら目の前の子供達と向き合ってまいります。

QRコードは紙面をご覧ください。

欠席連絡は
こちらから

